

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

September 2007

Vol. **17**

From NARA

◎フィールド・ナウ

世界遺産に行く

スリランカ・石見銀山・沖縄

◎研修レポート

個人研修(ベトナム)



ストルト・フィッシング(海に突き立てた杭に腰掛けて魚を釣るスリランカ独特の漁法)

世界遺産を行く

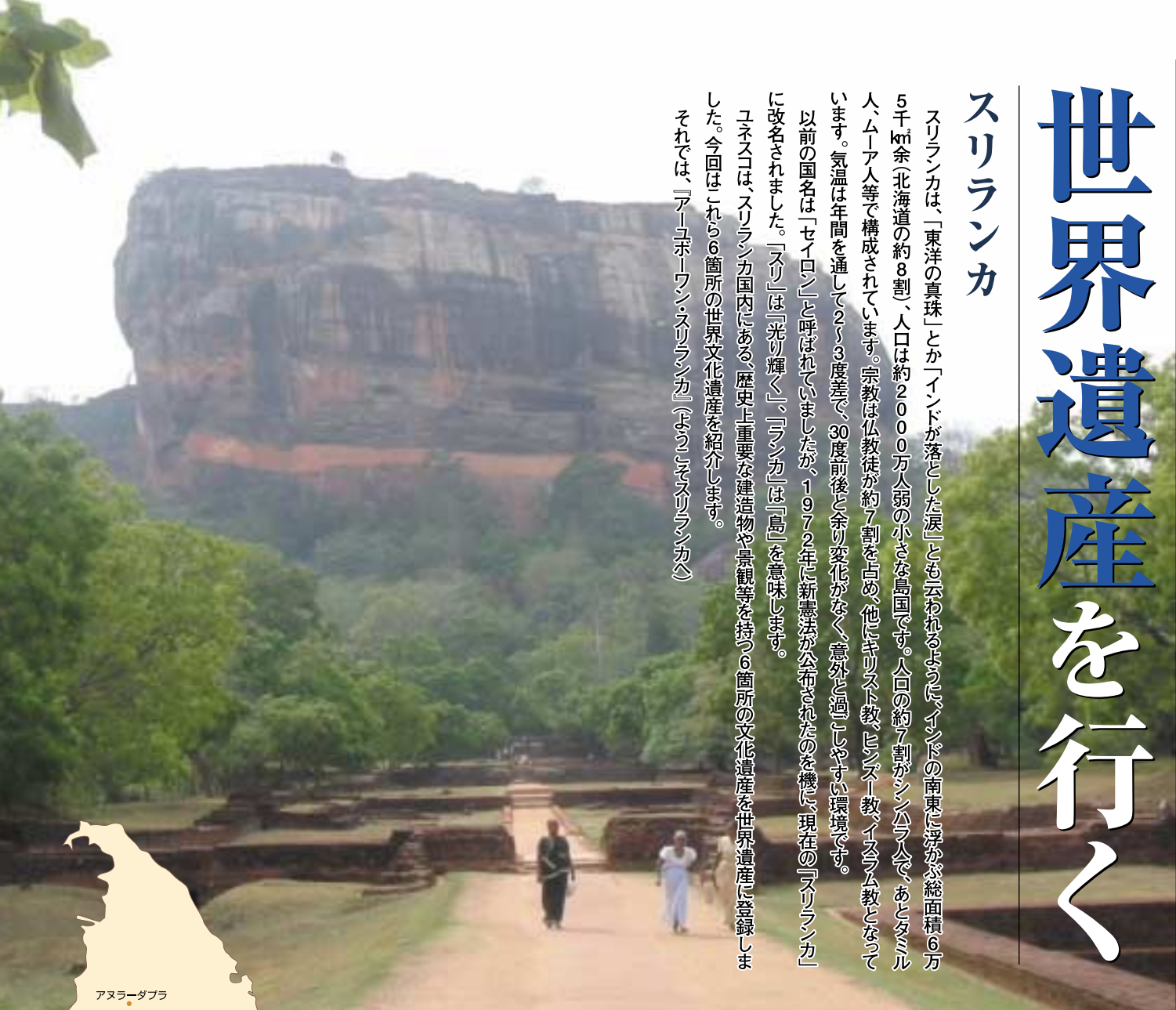
スリランカ

スリランカは、「東洋の真珠」とか「インドが落とした涙」とも云われるように、インドの南東に浮かぶ総面積6万5千km²余(北海道の約8割)、人口は約2000万人弱の小さな島国です。人口の約7割がシンハラ人で、あとタミル人、ムーア人等で構成されています。宗教は仏教徒が約7割を占め、他にキリスト教、ヒンズー教、イスラム教などがあります。気温は年間を通して2〜3度差で、30度前後と余り変化がなく、意外と過ごしやすい環境です。

以前の国名は「セイロン」と呼ばれていましたが、1972年に新憲法が公布されたのを機に、現在の「スリランカ」に改名されました。「スリ」は「光り輝く」、「ランカ」は「島」を意味します。

ユネスコは、スリランカ国内にある、歴史上重要な建造物や景観等を持つ6箇所の文化遺産を世界遺産に登録しました。今回はこれら6箇所の世界文化遺産を紹介しします。

それでは、『アーユボトワン・スリランカ』(ようこそスリランカへ)



聖地アヌラーダブラ

アヌラーダブラは紀元前500年頃、シンハラ人の祖先がインド北部から移住して以来、10世紀まで都として栄えた町で、コロンボの北東約200kmに位置します。

紀元前307年、インド亜大陸全土をほぼ統一したマウリヤ朝のアショーカ王は、マヒンダ王子にスリランカに渡って仏教を布教するように命じました。王子が出会ったのは、シンハラ王朝のティッサ王で、王子の説法を聞いて仏教に帰依しました。

王はアショーカ王に倣い、仏教を国家統治の理念としたことよって、アヌラーダブラは仏教の中心都市となりました。また、歴代の王は仏塔建設や灌漑用の溜め池の建設を推進したため、町には仏塔、僧院、宮殿跡など多数の貴重な仏教関係の遺跡が現存しています。しかし、シンハラ王朝は度重なる南インドからの侵略等によって都が混乱状態になったため、ポロンナルワに都を移しました。

スリー・マハー菩提樹

紀元前3世紀、インドのアショーカ王のサンガミッタ王女が、インドのブツガヤの菩提樹(仏陀がその木の下で悟りを開いたと云われている所)の分け枝をアヌラーダブラに持ち込み植樹しました。驚くべきことに、約2200年の時を経た現在も生き続けています。枝



1本1本は樹齢2000年を超えたものとは思えないほど細い枝ですが、スリランカでは仏陀の悟りを象徴する菩提樹は、仏像と同じくらい尊ばれています。

ルワンヴェリ・セーヤ仏塔

この仏塔の建設は紀元前2世紀、ドゥッタガーマニー王の時代に始まり、息子のサッターテイサ王子が完成しました。高さは55mですが、当時は実に110mもの高さがあったと云われています。仏塔の外壁には象の彫刻が施されており、現在のものは19世紀に修復されました。仏塔は煉瓦で出来ており、基壇の上に仏舎利を納める半球形の覆鉢が載り、その上に四角い平頭と円錐形の傘蓋を持つなど、スリランカ様式の仏塔の形をよく表しています。聖域内の仏塔へは、石畳の美しい歩道を、脱帽の上靴を脱いで素足で歩きます。



ルワンヴェリ・セーヤ仏塔



象の彫刻



ジェタワナ仏塔



ニッサンカ・マール王子の沐浴場

この寺院は静かな森の中にあり、巨大な石像は瞑想する仏陀と涅槃に入る仏陀を表しており、仏陀の生涯の象徴的な場面を立体的に雄大に表しています。涅槃仏の脇に立つ立像は、仏陀との別れを惜しむ弟子のアーナンダの姿だと云われています。なお、この石像を保護するための覆い屋根が最近完成しました。



ガル・ヴィハラ寺院

ガル・ヴィハラ寺院

12世紀後半で、バラークラマパーフ王は大規模な利水工事を行い、灌漑設備を充実させました。また、王は城壁の内外に多数の壮麗な寺院、僧院を建設し、南アジアを代表する仏教都市に変わりました。しかし、13世紀には再び南インドからの侵略が相次ぎ、シンハラ王朝は都を追われ、その後ポロンナルワは20世紀初頭まで密林に埋もれていました。

ジェタワナ仏塔

この仏塔は3世紀にマハーセーナ王により建てられ、当時は高さ122mあったと云われていますが、現在は70mで、一番上の傘蓋が損傷し、覆鉢は樹木で覆われています。建設当時の形に戻すための修復工事が、ユネスコの手で現在進行中です。

ポロンナルワはアヌラダプラの南東約100kmに位置します。10世紀末、シンハラ王朝は南インドのヒンズー教国チャョーラ朝に侵略され、瞬く間に島の主要な地域を占領されました。80年近く苦戦の末、1070年にチャョーラ朝を撃退しましたが、その間異教徒による支配の結果、シンハラ人は重税に苦しみ、仏教寺院は破壊され、美しい都であったアヌラダプラが荒廃したため、守りの堅いポロンナルワに遷都しました。

ポロンナルワが最盛期を迎えたのは

古代都市ポロンナルワ



シギリヤ・ロック

ダラダーマルワ寺院

クオードラングル（四角形）とも呼ばれるこの寺院は、王家の象徴である仏陀の犬歯を祀ってきました。この寺院には11棟の建物が並び、ほぼ中央には「ワタダーゲ」と呼ばれる円形の建造物で囲った珍しい仏堂や、「ハタダーゲ」と呼ばれる2階に仏歯を納めていた石造の仏歯堂があります。その他に、「トゥーパーラマ」と呼ばれるアーチ形の入り口を持つ仏堂や、「サットマハル・プラーサーダ」と呼ばれる7段になったピラミッド状の塔等で構成されています。



ダラダーマルワ寺院

スリランカ



シギリヤ・ロック(鋭い爪を持つ獅子の彫像)

古代都市シギリヤ

シギリヤは、アヌラーダプラの南東約60kmに位置します。正しくは「シンハギリ」と称し、「シンハ」とは獅子、「ギリ」とは山を意味します。5世紀にアヌラーダプラを統治していたダートゥセナ王には、2人の王子がいました。兄のカッサパ王子は、王に不満を持つミガラ將軍と共に王を捕らえ、王位継承予定の異母弟モッガッラーナ王子を追放して王位を手に入れました。將軍にそのかされたカッサパ王子は、父の全財産が貯水池だけと知るや怒り狂い、將軍に命じて父を殺害しました。しかし、父の殺害を命じたカッサパ王子は、このことをひどく後悔するようになり、罪を償うべく寺院や病院を建て善政に励みましたが、罪の意識が消えない上、弟のモッガッラーナ王子の復讐に怯えました。

シギリヤ・ロック

シギリヤ・ロックは、高さ200mもある巨大な岩山で、岩肌はゴツゴツと盛り上がり、筋骨逞しい獅子が伏しているような形をしています。カッサパ王は、静かで安全な暮らし



を王妃と過ごすため、頂上に王宮を建てました。現在は、建物は総て崩れ去り、煉瓦造りの基礎が残るだけです。頂上には宮殿と思われる建物群、岩を掘って作った貯水池、庭園の跡等を観ることが出来ます。城門は煉瓦造りで、その両脇には大きな鋭い爪を持つ獅子の足先の彫像があります。なお、頂上まで登るには、垂直ならせん階段や急勾配の階段があり、高所恐怖症の方には少し辛いかも知れません。

シギリヤ・レディー

シギリヤ・ロックの中腹、高さ150mの絶壁の岩肌に、豊満で色香あふれる美女(シギリヤ・レディー)が描かれています。父を殺害したカッサパ王が前非を悔い、その供養のために描かせたものであると云われています。当時は、500人を超える女性で彩られていましたが、現在に残るのは12人の天女です。手に美しい花を持ち、髪と胸もとを大粒の寶石で飾っています。天女の絵は肉感をより強調しており、筆遣いも自由奔放で大らかな雰囲気を出しています。



シギリヤ・レディー



ダンブラの黄金寺院

ダンブラの黄金寺院

ダンブラは、シギリヤから南西約20km、アヌラーダプラとキャンディとを結ぶ幹線道路沿いの、岩山の中腹に造られた石窟寺院です。

紀元前1世紀、シンハラ朝19代アバヤ王は、南インドのタミル人によってアヌラーダプラを迫られ、修行僧が住むダンブラの石窟に移り住みました。十数年後、修行僧達に助けられ都を奪還した後、王は感謝の意を込めてダンブラの岩山に石窟を造り、僧侶達に贈呈しました。

これらの石窟は、最初は修行のための洞窟でしたが、やがて幾つかの石窟は、仏像を祀り壁画で飾られた礼拝堂となり、寺院の中心施設へと変わっていききました。

その内三つの石窟は、11世紀に金箔で覆われた73体の仏像が置かれたため、「黄金寺院」と呼ばれるようになりました。後に二つの石窟が増築され、現在見られる石窟は五つあります。

第一窟には長さ14mの涅槃仏と五体の仏像があり、華麗な花模様を描かれた涅槃仏の足の裏は真っ赤に塗られており、ウイジャヤ王がインドからスリランカに上陸した際、足の裏に赤土の色だと云われています。



仏歯寺(ダラダーマーリガーワ寺院)



孤高のサル?

聖地キャンディ

最大の広さの第二窟には、天井を始め壁面にくまなく仏陀の姿や釈迦の生涯を描いた壁画が圧巻です。なお、石窟の天井から滴が絶えることなく落ち続けており、人々はその滴を壺に集め、清めの水として礼拝に用いています。第三〜第五窟には、仏陀の坐像や仏塔、彫像などが安置されています。なお、「ダンブラ」とは、「水が湧き出る黄金の岩」を意味します。

キャンディは、ダンブラの南約60kmに位置し、スリランカのほぼ中央高地の盆地内にあります。キャンディは、スリランカで2000年以上続いたシンハラ王朝の最後の都です。国の最高の宝物であり、仏教徒が崇拝してやまない仏陀の歯(仏歯・ぶっし)が祀られている仏歯寺(ダラダーマーリガーワ寺院)があります。

伝説によると、仏陀がだびに付された際、遺骨の中の犬歯はインド東部のカリンガ国にもたらされました。その後時を経て、仏歯がインドからスリランカのもたらされたのは4世紀です。カリンガ国の王女がシンハラ王家に嫁ぐ際、父の王が娘の幸せを願い、護符として犬歯を娘の髪に忍ばせて送り出しました。シンハラ王朝では、この貴重な仏歯をアヌラダプラの王宮内に祀り、王権の象徴としました。

しかし、13世紀後半、シンハラ王朝は南インドやポルトガルなどの侵攻にさらされたため、遷都を繰り返して、1592年にキャンディに移し、その後、王宮内に仏歯を祀る寺院を建立しました。それが仏歯寺です。その後、オランダ、イギリスの支配

を受け、1815年イギリスの完全植民地化により、シンハラ王朝は滅亡します。仏歯は一時イギリス政府に渡りましたが、1847年にスリランカの仏教僧団に返還され、現在は仏歯寺の黄金の舍利容器の中に納められ、大事に保管されています。

また、キャンディでは毎年エサラ・ペラヘラ祭り(7〜8月)が行われます。約2週間にわたって、国の象徴である仏歯が、華麗な衣装を身にまとった象の背中に乗せられ、仏歯寺を出て街中を練り歩く行事です。キャンディの名の由来は、附近一帯が「カンダ・ウダ・ラタ(山の高地の国)」と呼ばれていたのを、イギリス人がカンダをキャンディとなまて発音したことによると思われる。



仏歯寺の入り口にいる象

ゴールの旧市街とその要塞群

コロンボから南に約100km、スリランカの南端近くに位置します。港町としての歴史は古く、14世紀頃にはアラビア商人の東方貿易の拠点として栄



ゴール旧市街の様子

えました。

1589年にはポルトガルが港の入り口に最初の砦を築き、キリスト教の聖堂などを建設しました。1640年にはオランダが、風車を利用した揚水設備や稜堡を持つ要塞や教会、銀行、郵便局、ホテルなどを建設しました。18世紀末には、イギリスが町を無傷で手に入れますが、支配の拠点として重要な位置を占め、堅固な砦を持つ城塞都市として栄えました。旧市街地全体が世界遺産に登録されています。

20世紀に南西岸のコロンボを新しい首都としたため、城塞内には各国の影響を受けた建物がそのまま残りました。そのため、ゴールはスリランカの他の都市と違って仏教色が少なく、教会や時計台がよく似合う街です。また、海岸沿いに歩けば、雄大で荒々しいインド洋が眼前に広がり、ゴールの違った一面を魅力的に醸し出しています。



岬の先端にある灯台

「文化遺産ニュース」13号の続報 スリランカ南部 沿岸部(マータラ等)

2004年12月26日に発生した、スマトラ沖地震による大津波では、ゴールやその東部のマータラにおいても、壊滅的な被害を受けました。(既報)

約3年近く経過した現在、街の中心部では津波被害の形跡はほとんどなく、新しい建物に生まれ変わっており、目覚ましく復興しています。但し、街の中心部から少し離れた沿岸部の地域では、住宅等の建物の残骸がそのまま残されており、当時の様子を垣間見ることが出来ました。

また、マータラに向かう道路や橋梁などの多くも復旧し、日本から多くの援助があったことを示す記念碑も見ることが出来ました。



▲当時の様子を伝える建物の残骸

日本から援助があったことを示す記念碑

石見銀山



石見銀山遺跡はこれまでの調査により、次の3つの価値を有していることが明らかとなりました。

1. 世界的に重要な経済・文化交流を生み出したこと

石見銀山で産出された銀は貿易を通じて16世紀後半から17世紀初頭の東アジアに流通し、その経済に重要な役割を果たしました。また、当時世界各地に積極的に進出していたヨーロッパ人の知るところとなり、彼らの東アジア貿易への参入を促進、結果として東西文明間の文化的・経済的交流が推し進められることになりました。

2. 伝統的技術による銀の生産方式が豊富で良好に残っていること

石見銀山では銀の生産、すなわち採掘から精錬にいたるまでそのほとんどが手作業で行われていました。銀山棚内を中心に全部で600以上の坑道跡、製精錬や居住の場所であったこと示す平坦地などを見ることが出来ます。(大久保間歩・龍源寺間歩・釜谷周辺)

3. 銀の生産から搬出に至る全体像を不足なく明確に示すこと

先述のとおり、石見銀山遺跡には鉱山本体・鉱山町・街道・港・港町など採掘から搬出までの過程を示すものが良好な状態で残っています。これらが一体となった残り、鉱山を中心とした産業システムの総体を知ることができる例は、世界的にも貴重な存在といえます。



(大森の町並み・山吹城・街道・沖泊・港)
また、森林資源の適切な管理により、他国の鉱山と異なり豊かな山林が残っていることも大きな特徴となっています。

以上の価値を備えた石見銀山遺跡は「石見銀山遺跡とその文化的景観」という名称で、2007(平成19)年にニュージブラント・クライストチャーチにおいて開催された第31回世界遺産委員会において、日本で14番目の世界遺産として、またアジアでは初の鉱山遺跡として世界遺産リストへの登録が決まりました。

この登録は長年の調査研究もさることながら、地元住民が遺跡を大切に保護してきた歴史が背景にあることも忘れてはならないでしょう。世界遺産登録によりすべてが終わったわけではありませぬ。遺跡の価値を多くの人に理解してもらおうこと、そして今後この遺産を未来の世代に確実に引き継いでいくための適切な保存管理を行うことが求められています。



- 1.仙ノ山と大森の町並み(俯瞰)
仙の山では露頭掘りの跡や坑道跡など、採掘の跡が600箇所以上も確認されています。
- 2.ティセラ日本図
当時のヨーロッパにおいて作成された地図にも、石見銀山と考えられる鉱山が示されており、関心の高さが窺えます。
- 3.温泉津・沖泊道
16世紀後半から17世紀初頭にかけて銀を運んだ、全長約12kmの街道です。
- 4.釜屋間歩周辺
本谷地区で確認された遺構。選鉱を行った場所ではないかと考えられています。
- 5.山吹城
銀山の争奪を巡る攻防の舞台となったところです。
- 6.大久保間歩
石見銀山でも最大級の間歩です。※来年度から公開予定
- 7.龍源寺間歩入り口

沖縄

琉球王国のグスク及び 関連遺産群（斎場御嶽）

2000年11月に首里城跡などとともに、琉球王国のグスク及び関連遺産群としてユネスコの世界文化遺産に登録された斎場御嶽（せーふあうたき）は、那覇市内から車で約1時間、沖縄本島南部の知念半島の先端にあります。御嶽（うたき）とは、沖縄にある聖地の総称で、その中でも格式の高い聖地とされ、琉球王国でもっとも格式の高い聖地とされています。「最高位」を意味する「せーふあ」の名前が示すように、巨岩や聖樹に囲まれた格式の高い祭祀



場があります。斎場御嶽にはいくつかの神域があり、その中でも三庫裏（サングーイ）は、巨大な2つの石で構成され、その三角形をした洞門の奥の光が差し込んで、そこからは当時の最高聖地である久高島を垣間見ることが出来ます。この巨大な2枚の石版がもたれかかってできたトンネルを通ると、その大きさに圧倒されるとともにここが聖地である雰囲気を感じ取れます。現在でも、聖地巡拝の習慣を残す東御廻り（あがいうまい）の聖地として、多くの参拝客が訪れ、リゾート地とはまた異なった沖縄の一面を見ることが出来ます。



三庫裏(サングーイ)から見た久高島



三庫裏(サングーイ)

研修レポート

個人研修 ベトナム

文化遺産の保護に資する研修2007



集落保存の第1号として計画しており、文化庁もアジア太平洋地域での文化遺産保護のため、今後の農村集落の保存のあり方を考える調査研究の協力事業を展開しています。これまでに実効的な保存方策が提言されてきましたが、これを実践するための現地の実務担当者不足しているなど、課題も少なくありません。この研修を通じ、日本の町並み・集落の保存・活用の事例に触れることで、その必要な知識・技術などを習得し、それらの成果を自国で活かして頂けることでしょう。

平成19年8月28日から9月27日までの1ヶ月間、ベトナムから3名の研修生を招き、奈良を拠点に研修を行いました。今回の研修に参加したのは、ハタイ省文化遺産管理事務所管理専門官のリエムさん、ドオオンラム村文化遺産管理事務所技師のアンさんとナンさんで、皆さん首都ハノイから西方約50kmに位置するドウオンラム村の農村集落の保存に携わっています。ドオオンラム村はベトナム北部の代表的な農村集落の様相を今に伝え、ベトナム政府もその



Cultural Heritage News

「文化遺産ニュース」
パネル貸し出し
のご案内

文化遺産の写真パネルの貸し出しを行っています。



当事務所ではアジア・太平洋地域で撮影した数多くの文化遺産の写真パネル(カラー版、約90cm×60cm)を製作しています。文化遺産関係のイベントや会議での展示用として使用を希望される方に無料で貸し出しますので当事務所に御連絡ください。

「情報交流サロン」
のご案内

情報交流サロンを文化遺産や歴史の
学習、研究にご利用ください。

■AM9:30~PM5:00
(土、日、祝祭日、年末年始を除く)



当事務所内にある情報交流サロンには、日本を含む世界の文化遺産関係の書籍やパンフレット、ユネスコの世界遺産を紹介するビデオとDVD、当事務所が主催した国際シンポジウムなどの報告書をそろえています。パンフレットはお持ち帰りいただけます。書籍やビデオテープ、DVDの貸し出しはしておりませんが、書籍を閲覧したり、32インチのディスプレイでビデオ、DVDをご覧いただけます。サロンには、バーミヤーン大仏の破壊される以前の姿を記録した石窟全景のパネルも展示しています。



財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所
Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
〒630-8113 奈良市法蓮町757(奈良県法蓮庁舎1階)
TEL 0742-20-5001
FAX 0742-20-5701
URL <http://www.nara.accu.or.jp>
E-mail nara@accu.or.jp

- 交通アクセス**
- 近鉄奈良駅から ▶徒歩約20分
▶バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空白南隊行き」で、佐保小学校前下車すぐ
 - JR奈良駅から ▶徒歩約25分
▶バス7番のりばから「西大寺駅行き」または「航空白南隊行き」で、佐保小学校前下車すぐ

■次号の発行は、平成20年3月の予定です。